

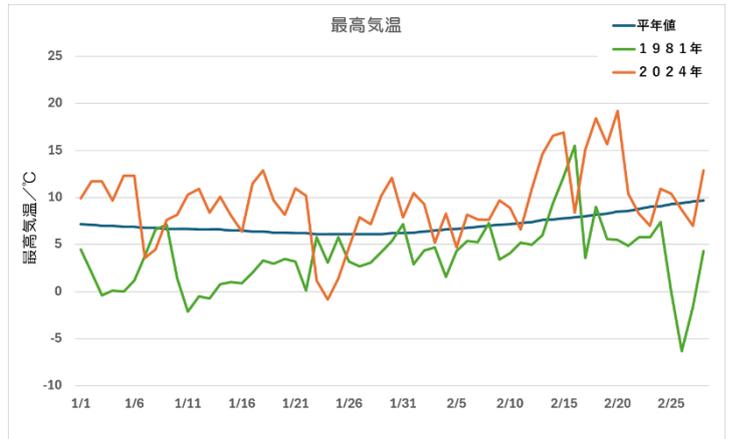
ジェットコースターのような・・・

2024年の冬は、冬と春が頻繁に入れ替わる冬でした

冬と春が交互に

今まで、1月・2月は最高気温が5℃にならない日が多いような気がしていましたが、今年は、10℃以上の日があったり、逆に0℃近い日があったりと、「春」と「冬」が交互にやってくる、不思議な冬になりました。

実際の気温がどうなっていたのか、気象庁のデータをもとに、世羅町の1月・2月の最高気温と最低気温をグラフにしてみました。

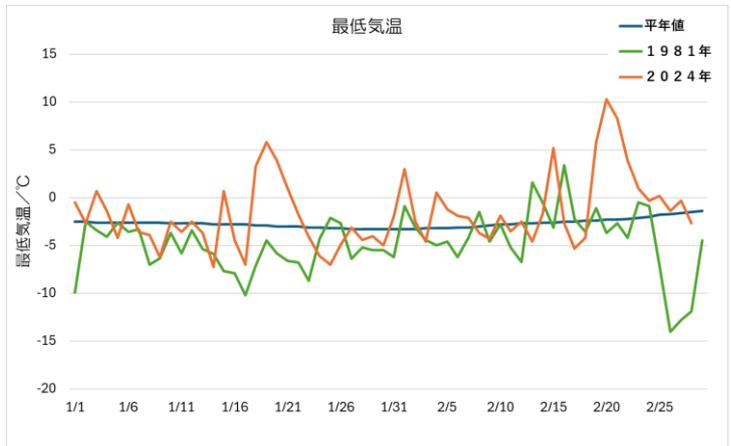


温暖化の影響でしょうか？

今年(2024年、オレンジ)と、1981年(緑)の最高気温・最低気温をグラフにしてみると、今年のほうが、最高気温・最低気温ともに日々の変化が大きくなっています。また、気温も全体的に今年のほうが高くなっていることがわかります。

1981年は、特別に気温が低かったわけではなく、2020年くらいまでは、最高気温・最低気温ともに、ばらつきがあるものの同じような傾向です。2021年頃から日々の気温のばらつきが目立つようになり、平均の気温も高くなってきているようです。

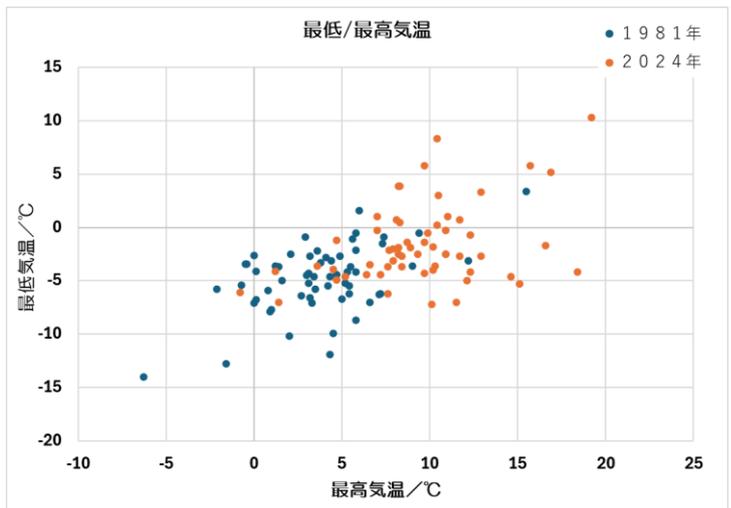
最低気温が-10℃以下になった日は、1981年には5日あり、2月26日の-14℃が最低でした。-10℃以下になる日は次第に少なくなってきていて、1990年以降は、数年に1日現れる程度になっています。



気温の変化が大きく

1月・2月の気温分布をみるために、横軸を最高気温、縦軸を最低気温にして、1981年と今年データをプロットしてみました。

気温の分布が、最高・最低気温ともに高温側にずれているとともに、点が分散していることから、気温のばらつきも大きくなっていることがわかります。



野菜への影響

私たちが世羅町で野菜作りを始めたころは、畑の標高が高いこともあって、冬には気温が-10℃以下になり、地表から10cmくらいまで土が凍っていることもありました。冬の気温が低いと、地表近くや、枯草の影で越冬している虫たちが死んでしまうので、春先の虫害が少なくなるのですが、最近は冬でも暖かい日が多いためか、春先の虫による食害が多くなり、キャベツやレタスが作りにくくなったような気がします。

変化する気候に合わせて、野菜の種類やその品種、作付け時期を検討して、安定して野菜が作れるよう努力していきます。